

UN FILM DE JEAN-LUC GODARD



ANTICIPATION

ANNA KARINA JACQUES CHARRIER MARILU TOLO JEAN-PIERRE LÉAUD

AVEC DANIEL BART JEAN-PATRICK LABEL IMAGE PIERRE LHOMME MUSIQUE DE MICHEL LEGRAND

MONTAGE AGNÈS GUILLEMOT DIRECTEUR DE PRODUCTION ANDRÉ CULTET DIFFUSION MONTIALE LES FILMS GIBÉ DISTRIBUÉE PAR ZAZIE FILMS INC.



未來展望

ヌーヴェル・ヴァーグの展開／近未来への旅

フランス・ヌーヴェル・ヴァーグは、日常的、個人的なもの为基础にしたものばかりではありません。

さまざまな映画ジャンルを再生する試みでもありました。なかでも、SF映画に対する執着は多くの監督にみられます。

「ヌーヴェル・ヴァーグの展開／近未来への旅」では、好一對というべき短篇SFを組み合わせ、

ヌーヴェル・ヴァーグのある一面を浮き上がらせようとするものです。ジャン＝リュック・ゴダールの「未来展望」とクリス・マルケルの「ラ・ジュテ」は、近未来を舞台にした人類社会への特異なアプローチが特徴的です。しかも、オルリー空港という場を共有しています。

そして、「時間表現」への執着。ある特権的な時間へのアプローチが、ゴダールとクリス・マルケルに共通する要素といえるでしょう。

そして、独創的な主題を浮き上がらせるのに、2作とも、他に類例をみない独特の映画表現を繰り広げています。

ゴダールにおける色彩の実験、マルケルにおける静止画面の大胆な活用——そうした映画表現がもたらす「未来ヴィジョン」は、現在においても、いささかもアクチュアリティを失っていないばかりか、ますます輝きを増しているように感じられます。

28年ぶりの公開となる「未来展望」と劇場初公開となる「ラ・ジュテ」という、ヌーヴェル・ヴァーグが生み出したSF映画の傑作の同時上映は、ヌーヴェル・ヴァーグの多面性の証明ともなるはずです。



ゴダールの「アンナ・カーリーナ時代」の幕を閉じる作品

クリス・マルケル監督のフォト・ロマン「ラ・ジュテ」との同時上映!!



アンナ・カーリーナは「心の愛」である 山田宏一

モノクロームでもない、何か色素の欠如したような沈んだ冷たい色調と鋭く不安をかきたてる光がきらめく2001年、宇宙時代の、夜のおそらく昼というものはないのだろう) 空港である。あわただしく、索漠たる風景だ。

1人の男と1人の女が税関のチェックでひっかかり、控えの間で男は女のヌード写真を、女は男のヌード写真を見せられ、やがて女はどこかへ連れ去られ、男は外国のVIPとして国家直営の売春宿ならぬ高級ホテルの一室に案内される。売春も国家によって管理され、処方箋にしたがって「肉体的愛」か「心の愛」か、どちらかの売春婦があてがわれるのである。

男(ジャック・シャリエ)は「時間の流れが遅い」銀河系の惑星からやってきた異邦人で、しゃべりかたもゆっくりとカタコトのように、幼いくらいひとふし、ひとふし発音する。

だが、映画は早口に、スピーディに、あっという間に、ひとつの愛の寓話を語ってしまう。「愛し合う」ことが禁じられた世界で、愛の自由を回復し、失われた「やさしさ」を見出すに至る物語なのである。

愛とは、もちろん、アンナ・カーリーナだ。

だが、これがゴダールの「アンナ・カーリーナ時代」をしめくくる1960

年代のゴダール／カーリーナ作品の最後になった。

「愛とは対話なのだ」とゴダールは言ったが、この未来都市では、愛と対話がバラバラに、セックスという肉体的な「行為」と愛を語る「言葉」に分離されてしまっているのだ。

マリルー・トーロが演じる娼婦は「肉体的愛」であり、首から背中にかけてられた真鍮帯もどきの枷を鍵であけてははずしてもらおうと、ものも言わずに、さっさと全裸になり、無表情のままベッドに横たわるだけ。

アンナ・カーリーナが演じるのは、「心の愛」である。旧約聖書のなかの愛と性の抒情詩、「雅歌」を詠じながら、窓ぎわに立って、長い柵を竖琴のように爪弾くしぐさが印象的だ。

ラストは愛の記憶を取り戻した「アルファヴィル」のアンナ・カーリーナをちょっぴりセンチメンタルに想起させるとともに、「あたしは女よ」といたずらっぽくそぶいてみせた『女は女である』のアンナ・カーリーナを想起させるあばずれっぽい、しかし謎めいた微笑のクローズアップだ。

みじかくも美しい愛のメロドラマを見る思いがする。

ANTICIPATION 未来展望

監督・脚本:ジャン＝リュック・ゴダール/音楽:ミシェル・ルグラン/撮影:ピエール・ロム/編集:アネス・ギユモ/出演:アンナ・カーリーナ(エレオノール)、ジャック・シャリエ(ジョン・ディミトリアス)、マリルー・トーロ(ナタシャ)、ジャン＝ピエール・レオー(ベルボーイ)レ・フィルム・ジベ作品/1967年/フランス・イタリア・ドイツ合作/20分/イーストマンカラー・ヴィスタ(1.66:1)/オムニバス「愛すべき女・女たち」の最終挿話 配給:ザジフィルムズ

6月上旬より独占レイトロードショー!! 連日P.M.9:20より上映開始 (終映P.M.10:30予定)

特別鑑賞券1,300円(税込)好評発売中!(当日:一般1,500円の処)

★劇場窓口で特別鑑賞券をお買い求めの方に特製ポストカードをプレゼント

★特別鑑賞券は劇場窓口、テアトル系劇場、都内各プレイガイド、チケットセゾン、チケットぴあ、他にてお求めください。

協力:Grey

シネセゾン 渋谷

渋谷道玄坂 ザ・プライム 6F Tel.03-3770-1721